

# 令和 3 年度 県立佐和高等学校自己評価表

目指す学校像	1 平和と社会の正義を重んじ、誠実で自主的な実践力のある人間の育成 2 人格の陶冶と学力の向上に努め、真理を求める創造性豊かな人間の育成 3 文学や芸術を愛し、情操豊かな幅広い教養を身に付けた人間の育成 4 国家や郷土を愛するとともに、自他を敬愛し、協調と連帯の精神に富む人間の育成 5 心身の錬磨に努め、強靱な体力と忍耐力を備えた人間の育成					
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標		達成状況	
<p>校内 Wi-Fi や大型ディスプレイ等の ICT 機器を活用した分かりやすく、主体的・対話的で深い学びを実現する授業デザインに全教科で取り組んでいる。</p> <p>また、豊かな心の育成の一環としてボランティア活動を位置づけ、全校ボランティアディを設けるなど、生徒全員がボランティアに関わる活動を行った。</p> <p>生徒の長所を最大限に伸ばし、進路実現につながるような 3 年間を通してのキャリア教育が急務である。そのためにも一人一人に高い目標を持たせ、学力の向上を図る必要がある。</p> <p>地域との連携については、地域のボランティア活動等に参加するほかに、学校の広報活動に力を入れ、地域に愛され信頼される学校づくりを進めていく。</p>		一人一人が幸せな人生を歩むための、主体的・対話的で深い学びの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学びの核をゆさぶる、分かりやすい授業の推進</li> <li>ICT 機器やフリーWi-Fi 環境等を活用した質の高い授業づくり</li> <li>主体的な学びを人生や社会に生かそうとする、学びに向かう力の育成</li> <li>仲間との対話と笑顔があふれる教育活動の推進</li> </ul>		B	
		全ての学校教育活動を通しての豊かな心の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>道徳教育を中心とした、心の教育の充実</li> <li>豊かな人間性と社会性を身に付けるための特別活動の充実</li> <li>思いやりや助け合いの心を育成する社会奉仕体験活動の充実</li> <li>一人一人に寄り添う、生徒指導と教育相談体制の充実</li> </ul>		B	
		夢を実現する、キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の進路実現を目指す、個別指導の充実</li> <li>キャリア教育に関する実践的・体験的な活動の充実</li> <li>自己を発見し、可能性を伸ばす、キャリアカウンセリング機会の確保</li> </ul>		B	
		地域住民に開かれた、信頼される学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域のボランティア活動や行事等への積極的な参加</li> <li>地域に愛される学校を目指す、広報活動（HP 等）の推進</li> <li>地域・保護者との積極的な連携による、地域と一体感のある学校づくり</li> </ul>		B	
		教職員の働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の在校時間を把握し、長時間労働の常態化を解消</li> <li>校務分掌の見直しによる教職員のワーク・ライフ・バランスの実現</li> <li>教職員の勤務時間の適正化</li> </ul>		C	
		三つの方針		具体的目標		評価
「三つの方針」 （スクール・ポリシー）	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 （グラデュエーション・ポリシー）	（長期的目標） 地域社会に貢献する、心豊かな人間の育成		B	B	進路実現に向けて ICT を活用した分かりやすい授業の展開
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 （カリキュラム・ポリシー）	（中期的目標） 一人一人が幸せな人生を歩むための、主体的・対話的で深い学びの推進 夢を実現する、キャリア教育の充実		B		地域住民に開かれた信頼される学校づくり
	「入学者の受入れに関する方針」 （アドミッション・ポリシー）	（短期的目標） 自分の進路実現を目指し、日々努力する生徒		B		基礎学力の向上のために主体的に学習に取り組む生徒

## 別紙様式2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題
国語	豊かな人間として生きるための国語力の向上	ICT 機器を積極的に活用し、授業の内容を充実させ、様々なものの見方、考え方、感じ方を知り、判断力及び幅広い人間性の育成を図る。	A	B ・課外指導の充実。 ・漢字検定の奨励。
	自己学習能力の向上	家庭学習（予習・復習）の習慣化を図る。	B	
	基礎・基本の充実	週1回を目安に漢字テストを実施し、常用漢字の学習の充実を図る。 国語辞典、古語辞典、国語便覧を活用する。	A	
	進路実現のための対策	課外指導等を実施し、実力の養成を図る。 漢字検定試験を年2回実施し、資格取得を奨励する。	B	
地歴公民	基礎学力の充実	中学校での既習内容の発展的理解を目指すとともに、小テストの実施や視聴覚・ICT教材の活用等によって、高等学校の地歴・公民教育に必要な基礎的知識の定着を図る。	A	A ・教員間での相互の授業参観を踏まえての授業検討・意見交換の活発化。
	理解しやすい授業の実現	日々、授業内容を検討するとともに教材を精選し、指導方法・授業の質の向上を図る。	B	
	自主的学習態度の養成	授業内容と現代社会との関わりを生徒に考えさせることによって、社会参画する主体的な態度を養う。生徒自ら学習し、理解を深めることによって、学ぶことの楽しさを実感できるような授業形態を工夫する。	A	
数学	基礎学力の充実	教科書準拠の問題集を活用し、問題演習を通して基礎・基本の定着を図る。 単元テストや課題などを通して、予習・復習を促し家庭学習の習慣化を図る。 成績不振生徒に対して、補習や計算力テストなどを行う。	B	B ・生徒同士の協働的な学習を積極的に取り入れる。 ・ICTを活用し自主的な学びを促すことに加え、宿題や補講を実施し基礎学力の定着を図ることを両立していく。
	実力の養成	ICTを活用した効率的な授業を行い、実力の養成を図る。 進路に応じた課外授業を行う。	B	
理科	豊かな科学的素養の涵養	ICTなどを活用し、興味・関心をひく授業の工夫と分かる授業の展開を心がける。 観察や実験を取り入れるなど、直接ものにふれる機会を増やす。 日常生活での科学の役割や地球環境とのかかわりを重視して指導を行う。 科学的な考え方、表現や発表する力を養う。	B	B ・理系生徒への指導の充実。 ・実験を行う時間の確保。 ・ICTの活用。
	進路実現のための指導	小テストや課題による学習の理解度・到達度を確認するとともに、宿題など家庭学習を定着させて、基礎学力の向上に努める。 課外等で問題の解決法などをきめ細かく指導する。	B	
保健体育	基本的生活習慣の確立	始業時間遵守や授業参加の大切さを理解させる。 体育にふさわしい挨拶や返事、身なりがきちんとできるようにする。	A	B ・集団における活動のあり方や方法を考慮し内容を充実させる。
	生涯スポーツの基礎確立	健康や運動について科学的理解を深め、技術上達のための工夫や種目の特性を理解し、楽しさや喜びを体験させることにより、生涯スポーツへと結びつける	B	
	体力の向上	効果的な体づくり運動を取り入れ、年間を通して体力の向上を図る。	B	
音楽	鑑賞及び表現の能力の向上	生徒の実態に応じた教材を精選し、多様な活動を経験させる。鑑賞・表現の中で、言語活動を充実する。	A	B ・言語活動の充実、ICT機器の更なる活用。
	豊かな情操の涵養	様々な形態の音楽に触れ、文化的背景や音楽と自己の関わりについて理解させる。	B	
美術	美術文化への理解を深める	様々な時代の美術作品に触れさせ、作品を生み出す背景にある文化や人の心を理解させる。 現代の作家の表現に触れ、制作意図について理解させる。	B	B ・多様な活動の実践に向けた場の設定、ICT機器の更なる活用。
	美的体験の充実	様々な技法による作品の制作や鑑賞を行う。	A	

別紙様式2 (高)

教科	英語	確かな学力の養成	テストや課題により語彙を増やし基礎問題を数多く解くことによって、文法の基礎力の定着を図り、ライティングの力をつける。 音読を多く行い英文をたくさん読むことによってスピーキングやリーディングの力をつける。 授業の中で演習を行うことによって、リスニングの力を養う。	C	B	・外部試験の合格者数を増やす。 ・ICTを活用した、コロナ対策も万全にできるスピーキングテストの実施。
		大学入学共通テストや民間テストへの対応	校内で英検等の英語外部試験を実施し、大学入学共通テストや4技能試験に対応した学力の習得を目指す。 大学一般受験者数を増やし、大学進学実績の向上に貢献する。	B		
		社会の変化に対応した指導の充実	最新の情報を教材として使用し、衣食住の他、保育・福祉・消費生活など、家庭生活に関する幅広い知識と技術を身に付けさせる。	B		
	家庭	実験・実習、体験学習の工夫	限られた環境の中で、1回でも多くの実験・実習を行い、体験を通して具体的に学習させる。	B	B	・調理等の実習ができる環境が整ってきたので、次年度はさらに実験・実習を充実させたい。
		ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動の推進	ホームプロジェクトの意義を理解させ、実践させるとともに、科学的な視点を取り入れた学校家庭クラブ活動を実施し、地域との交流を活発に行い、その成果を発表する。	B		
		情報に関する知識と技術の習得	実習を年間授業時間の5分の2以上行うことにより、情報機器およびアプリケーションソフトの基本的な知識と技能を修得させる。	A		
	情報	情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度の育成	多くの情報の中から、自分に必要な情報を適切に収集、処理し、それを発信することができるようにする。情報の受発信者としての法令遵守およびモラルとネットiquetteに気を付けられるよう、情報社会の一員としての自覚を育む。	B	A	・新科目「情報Ⅰ」に対応した指導を行う。 ・CAI室の新しいコンピュータおよびシステムの使用方法を確立する。
		コミュニケーション能力の習得	実習時に相互に教えあい、プレゼンテーションの作成・発表等を通してコミュニケーション能力の充実を図る。	A		
		学校内規の改正	学校内規全般の改訂や見直しを進める。	B		
教務部	生徒の主体的・対話的な深い学びの推進	学習目標・学習計画を明確にし、学習環境を整えて主体的に学習する態度を育てる。対話的な授業の推進とICTフリーWi-Fi環境等を活用した質の高い授業を行う。	A	B	・追考査の内規の整備と令和4年度から始まる3観点の観点別評価を各教科に周知し、それに対応した内規の整備ができた。内規全般の見直しを進めたい。 ・教科のグラウンドデザインを整備する。 ・反省を生かし年間行事予定を作成する。 ・備品を整備する。	
	魅力ある学校づくりの実現	他の分掌や各学年及び教科と連携を取り、グラウンドデザイン、年間行事予定を作成する。	A			
	広報活動の充実	佐和高ホームページの定期的な更新と携帯サイトの積極的な活用をして開かれた学校を目指す。学校パンフレット、ポスターの制作や魅了ある学校紹介動画を作成する。部活動の体験を含めた学校説明会を実施する。また、その他の見学希望にも柔軟に対応する。	B			
	授業のICTの推進	情報部と連携し、デジタル教科書や授業に必要なアプリケーションソフト、ハードウェアを整備する。	A			
	備品・設備の充実	定期的に文具や教務用具の点検及び補充を行う。職員室や印刷室等の備品等の整理及び整備を行う。教育活動に必要な備品を整備する。	C			
	情報化の推進	統合型校務支援システムを運用し、円滑な成績処理と指導要録の作成を進める。定期的にサーバーの保守点検を実施し、システムを維持する。職員のICTスキル向上をサポートし、業務効率化を図る。	A			
情報部	授業のICT化の推進	電子黒板、Chromebook等を活用し、生徒にとって楽しくわかりやすい授業を提供できるように、職員に対しICT活用に関する研修や情報提供を行う。	A	A	・今年度の成果と反省を生かし、生徒一人一台端末2年目に向けICT機器を効果的に活用した授業を運用できるよう研修や情報提供をさらに充実すること。	
	情報セキュリティの厳正なる管理	常に注意喚起を促し、職員の情報セキュリティに対する意識を高めるとともに、ソフト及びハードウェアの管理を徹底する。	A			

別紙様式 2 (高)

進路指導部	3年間を見通した進路指導体制の確立	各学年・各教科とも連携し、進路希望実現に必要な学力向上のための具体的方策を検討し、実施する。3年間を線で結んだような各学年の時期ごとに適した進路行事を計画・実施する。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で実施できる進路行事（外部団体等の利用）の検討。</li> <li>・全職員による受験指導。</li> </ul>
	LHR や総合的な探究の時間における「進路指導に関する項目」の充実	各学年の学級担任と連携し、入試改革や多面的総合的評価の導入にともなう指導に有効な情報及び進路資料の提供等を行う。特にポートフォリオの充実に結びつくような情報提供や進路行事の企画に力を入れる。	C		
	「進路の手引」の充実と活用	入試改革や社会の変化をふまえた上で生徒の実態に即した「進路の手引」を作成し、LHR 等において活用の仕方等を指導する。	B		
	進路相談の充実、進路指導室の活用の推進	昼休みと放課後における進路指導室の教員常駐化を実施し、生徒の進路相談、情報提供、資料の閲覧等に応じる。	A		
	外部機関(大学、短大、専門学校、企業等)との連携	看護体験、病院見学会、各種ボランティア、オープンキャンパス、進路説明会、公務員対策講座等へ早い時期から可能な範囲での参加を促す。また、WeBオープンキャンパスの積極的な利用を促す。	C		
生徒指導部	基本的な生活習慣及び社会的な生活習慣の確立	登校時に、校紀委員等とともに立哨指導を行い、あいさつの励行を図る。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活をいかに大切にすることができるか。学校全体で生徒を見守ることはもちろんだが、挨拶が売りの学校に向けて、教職員が積極的に挨拶をしていく。</li> <li>・指導件数0件に向けて、生徒理解に努める。生徒の実態を把握できれば、問題行動の未然防止につながる。いかに生徒の「普通」を知るかが大切である。</li> </ul>
		身だしなみをきちんとするために、毎日の指導をはじめ、マナーアップ週間、学期初めや休業明け・考査最終日等に服装頭髪指導を行う。			
		遅刻防止を図るため、遅刻カード利用し、時間の大切さを自覚させる。			
		早退カード・外出届を利用し、無断早退・無断外出を防止する。			
		スマートフォン・携帯電話の使用に関して、LHR 集会で注意を促し、マナーの向上を図る。			
	交通安全と事故の未然防止	交通安全教室およびスマホケイタイ安全教室を実施する。 毎週2回の立哨指導、月2回の校外指導等を実施する。 必要に応じて校内巡視を実施し、生徒の日常生活に目を配る。	A		
心の教育の充実(いじめ防止)	生徒会等と連携し、本校生としてのプライドと自覚の醸成に努める。	B			
	全校ボランティア活動等を通じて、他人を思いやり、命を大切にしたい気持ちを育てる。				
	生徒理解のための情報交換を密にする。				
	教師からの声掛けを励行し、トラブルやいじめの未然防止に努める。				
特別活動部	心の教育を重視したHR活動	ねらいに沿った綿密な計画の作成と時間の確保を図る。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会活動の活性化。</li> <li>・部活動加入率の向上。</li> </ul>
		生徒同士が真剣に語り合えるようなクラスの雰囲気づくりを図る。			
	活力を生む学校行事	生徒に感動を与える行事づくりを企画する。	A		
		生徒の自主的な企画を尊重して、積極的な参加につなげる。 チャレンジプロジェクトとの連携を図り、キャリア・パスポートを活用してボランティア活動に積極的に参加させる。			
	生徒会活動の推進	企画と準備を綿密に行い、各活動の達成度を向上させる。 達成感が得られるような支援体制づくりを図る。	B		
	部活動の活性化	年度当初の新生へ部活動紹介を工夫し、加入率の向上を図る。 部活動顧問会議、部活動運営委員会等を通して、円滑な活動を推進する。	B		
施設の有効利用	コスモホール、多目的ホール、トレーニング室の積極的な活用を図る。	A			

別紙様式2 (高)

保健厚生部	健康教育の充実	保健委員会の指導と生徒への健康相談及び健康教育（講演会含む）を充実させる。	A	A	・奨学金希望者の対応。
	防災意識を高め災害を想定した避難誘導	全職員を役割分担し、迅速な避難誘導ができるようにする。	A		
	学校の生活環境の整備	感染強予防対策及び安全点検等を行い、学校環境を整備する。	A		
	奨学金業務の円滑化	迅速な情報提供と応募生徒の指導を行う。	B		
図書部	授業・部活動・HR活動に必要な資料、図書の整備・充実とその積極的な活用	希望図書・教科関連図書・学習参考書・視聴覚資料を選定し、購入する。	B	B	・委員会活動の活性化。 ・授業や行事などで活用できる図書等の資料のさらなる充実。
		各教科・HR担任・進路担当との連携を図る。 ブックトーク・ビブリオバトル・朗読講座を企画し、実施する。			
	図書館充実のためのサービス向上	適正・迅速な購入、レファレンスサービスを推進する。 学習並びに進路選択のための資料を提供する。	A		
	図書委員会・視聴覚委員会活動の充実	例会の充実、広報活動の推進、読書会の充実を図る。 各種研修会・ボランティアに参加する。	B		
	視聴覚機器の授業等に対応した環境整備	授業・行事等に対応した環境整備に努める。 視聴覚機器の整備・活用に取り組む。	B		
渉外部	PTA活動の活発化	総会の出席率向上を目指す。目標は出席率33%以上。 各学年・各専門委員会活動の活性化を図る。	D	D	・コロナ感染症の状況次第で活動が不確定でその対応が課題である。
		PTAふれあい講座（年3回）の内容の充実、及び参加率の向上を目指す。			
	同窓会との連携	定期的な情報交換を実施する。（本年度は総会開催の予定）	D		
第1学年	基本的な生活習慣の確立 基礎学力の向上	清掃を徹底させ、学習環境の整理整頓に努めさせる。	A	B	・次年度もChromebookの積極的活用を行い、学習だけでなくHRや探求活動でも活用する。 ・スタディサブリを活用し、目標を持って学習に取り組むきっかけとして英検・漢検の受験者を増やす。 ・日々よく生徒を観察し、心身面で問題を抱えている生徒の早期発見やカウンセラーの活用、家庭との連携を深めるなど学校として組織的に対応する。
		立哨指導や集会時の指導等を通して、挨拶の励行、相手を尊重し人の話をよく聞くという基本的なマナーを身に付けさせる。			
		定期的に行う服装・頭髪指導等により、きちんとした服装・頭髪と規律ある生活をさせる。			
		各教科との連携を図り、チャイムと同時に着席させ、日常の授業に集中して取り組ませる。			
	基礎学力の向上	朝のドリルや朝の読書に取り組むことにより、学習・読書の習慣化を図る。	B		
		進路指導部と連携し、進路意識を早期に確立させ、その実現に向けて努力させる。			
		課外、希望模試、外部英語試験、学習支援プログラム等への積極的参加を奨励する。 学習動画やスタディサブリを活用し、家庭学習の習慣化を図る。			
	生徒指導の充実	面接等を通して、学校生活へのスムーズな適応を助言、指導する。	A		
		心身面で問題を抱える生徒に対して、教師・スクールカウンセラー及び家庭との連絡を密にして対応していく。			
	特別活動の充実	部活動、委員会、生徒会、HR活動等に積極的に参加させ、幅広い活動を体験させる。	B		

別紙様式 2 (高)

第2学年	基本的生活習慣の確立	挨拶をはじめ、基本的生活習慣を確立することにより、生活全般の自己管理能力を育成する。	B	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学年一致団結して指導できた。ただ、特に力を入れている「朝読書」による学校生活のリズムづくりは、非常に有効であった。全校生徒対象として他学年との足並みを揃える話し合いを持つべきである。</li> <li>・生徒それぞれの進路実現に向け、計画的かつ協力して活動したい。</li> </ul>
		家庭との連絡を密にして、欠席・遅刻・早退等の保護者からの連絡を徹底させ、規律ある生活をさせる。 チャイム着席を徹底させ、授業に集中できる環境作りに努める。			
	学力の定着と向上	各教科と連携しながら自主的に学習する態度や家庭学習の習慣化を図る。	A		
		年間を通して「朝の読書」を実施し、落ち着いて授業に取り組む雰囲気作りをする。			
		漢検・英検等を推奨し、資格取得を促す。 平常課外・長期休業中の課外・模擬試験・学習セミナー等に積極的に参加させる。			
	進路指導の充実	小論文模試・ガイダンスの実施により、進路実現へ向けての文章表現力を養成する。	A		
進路ガイダンスや進路講演会等の進路行事を通して進路意識の高揚を図り、進路目標を確立させる。					
個別面談を通し生徒個々の適性や能力等を把握し、進路意識を高め進路実現に向けて継続的な指導をする。 新テストに向けて、学習の振り返りや活動記録をポートフォリオに入力することを習慣化するように促す。 国公立大学を希望する生徒には個別指導を展開し、進学意識を高揚させ、進路目標達成を目指す。					
生徒指導の充実	SHR や立哨指導で服装・頭髪指導を継続的に行い、高校生らしい服装・頭髪やマナーを定着させる。	A			
	心身面で問題を抱える生徒に対して、家庭との連絡を密にしてスクールカウンセラー及び専門機関と協力して一人一人に寄り添う支援をする。				
特別活動への積極的参加	部活動、生徒会活動、学校行事、ボランティア活動に積極的に取り組ませる。	B			
	体験的な活動を通してコミュニケーション能力と豊かな心を育てる。				
第3学年	生徒指導の充実	進路希望実現を念頭に置いた生徒指導に努める。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望理由書・小論文を書くための文章力を1年からいかに養うかが課題。</li> <li>・資格取得は明らかに入試の合否や入学金の免除等に有利なので、学校全体で受験を促すとよい。</li> <li>・朝の学習は3年間継続して行うことができたが、時間にふさわしい課題を準備することが望ましい。</li> </ul>
		社会人となる準備として、正しい服装や挨拶などの基本的マナーを身に付けさせる。			
		清掃等を徹底させ、学習環境の整理整頓に努める。			
		心身面で問題を抱える生徒に対して、教師間及び家庭と情報を共有しながらスクールカウンセラー及び専門機関と協力して適切な支援を行う。			
	学力の向上	チャイムと同時に着席させ、授業に集中できる環境づくりに務める。	B		
		課外や学習セミナー等へ積極的に参加させ、推薦・一般入試に対応できる学力を身に付けさせる。			
	進路希望の実現	英検・漢検等の資格取得を促す。	A		
		生徒の実態に応じて授業の形態を工夫し、主体的に授業に取り組ませる。			
各教科との連携を深め、自主的に学習する態度や家庭学習の習慣化を図る。					
朝の学習を実施し基礎学力の定着を図る。					
面接やガイダンスなどを通して、進路希望実現のための小論文・面接等の助言・指導を徹底して行う。					
特別活動への積極的参加	オープンキャンパス・進路相談会等の実施を調べた上での積極的な参加を促す。	A			
	ガイダンス・集会・面談などを通して、国公立大学進学希望者への推薦・一般入試に対応できる指導を徹底して行う。				
	社会に貢献できる力を付けるために、部活動・生徒会・委員会・ボランティア活動等に積極的に参加させる。				
特別活動への積極的参加	部活動・生徒会・委員会活動等に積極的に参加させる。	A			

※評価基準： A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない